

兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物—第4報

島崎 正美¹⁾・島崎 能子²⁾

兵庫県におけるシルビアシジミ *Zizina emelina* (環境省のレッドリストで絶滅危惧 I B 類選定: 以下, 本種) の吸蜜植物に関して「兵庫県の蝶」(2007) に記載されている, カタバミ, キツネノマゴ, シロツメクサ, ニガナ, ヒメジョオン, ミヤコグサの6種に加えて, 筆者らは新たに観察記録したアメリカセンダングサ, アリアケスミレ, オオイヌノフグリ, オオニシキソウ, カンサイタンポポ, コメツブウマゴヤシ, ツリガネニンジン, ヒナギキョウ, ヒメハギ, ヨメナ (2015, 2016), およびイヌコモチナデシコ, ヌスビトハギ, ブタナ (2016) の13種を報告している. 観察地は2016年までの多くが加古川市の生息地2か所で, 2016年に新発見地となった高砂市での観察例を追加している. 今回はその高砂市の生息地で, 新たにコマツナギ, ツルボおよびアカツメクサで吸蜜の様子が観察でき, さらに三重県の友人が兵庫県加東市で3種の撮影記録を撮られていることが

わかり, それらを含めて第4報として報告する.

2020年8月1日, シルビアシジミの第二化の発生確認を目的として訪れた高砂市の生息地で, コマツナギで吸蜜する個体を観察でき, 撮影記録をとった(図1).

2020年9月26日の調査時ではシルビアシジミの姿をみることはなく, なぜかミヤコグサが激減していることが気になり, 10月1日にあらためて発生状況の確認に行き, ようやく確認できたのは右前翅がすこし傷んだ♀1頭. この草地ではウマゴヤシが大勢を占める繁殖をみせており, シルビアシジミがウマゴヤシを食草とする場合もあるらしいが, ここでは確認できていないし期待もできない.

カタバミの黄色い花が咲く草地ではヤマトシジミが多く飛び, その中にひとときわ青色が濃いものが混じっている. その動きについていくと, やや盛りを過ぎたがまだ群生状態で花をつけるツルボへと飛んでいってすぐに



図1 コマツナギ. 兵庫県高砂市, 2020年8月1日.



図2 ツルボ. 兵庫県高砂市, 2020年10月1日.

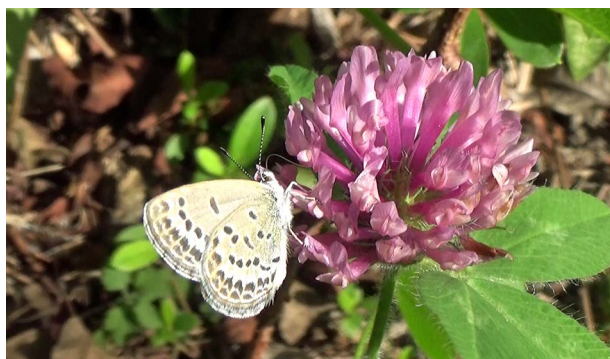


図3 アカツメクサ. 兵庫県高砂市, 2020年10月2日.



図4 イヌコウジュ. 兵庫県加東市, 2012年10月6日.

¹⁾ Masami SHIMAZAKI ; ²⁾ Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市



図5 ハナタデ. 兵庫県加東市, 2012年10月6日.



図6 ミゾソバ. 兵庫県加東市, 2012年10月6日.

吸蜜し始め, その個体はまぎれもないシルビアシジミだと判別できた(図2). 次いで翌10月2日にも再訪問してシルビアシジミの発生状況を観察. ツルボが咲く草原でこの日もヤマトシジミとシルビアシジミが混生状態で飛んでおり, 昨日の右前翅に傷があった個体とは異なる新鮮な♀だとわかるシルビアシジミの飛翔を追った結果, アカツメクサに落ち着いて長い時間吸蜜する様子を撮影記録できた(図3). アカツメクサはシロツメクサでの吸蜜が観察できた2019年に, 周辺に密度濃く咲いていたにもかかわらず, この花に蜜を求める個体がみられなくて, シロツメクサと何の違いがあるのか不思議に感じたのだが, 今回は周辺にシロツメクサがまったく咲いていない条件下での観察で, 両種が混在する場合にはシロツメクサを優先する何らかの差があると思われる.

加古川市と高砂市で確認できた本種の吸蜜植物は, 「兵庫県の蝶」に記述された植物種に筆者の観察記録を合わせて22種となったが, 三重県から本種の撮影に加東市まで遠征された宮下耕一氏がこれまでに報告されていない吸蜜例を2012年10月6日に記録されておられるとの情報をいただき, イヌコウジュ(図4), ハナタデ(図5), ミゾソバ(図6)の3種を追加し合計で25種となった.

明らかとなった吸蜜植物25種を花の色で分類すると以下ようになる.

赤系統: アカツメクサ, イヌコウジュ, イヌコモチナデシコ, キツネノマゴ, コマツナギ, ツルボ, ヌスビトハギ, ハナタデ, ヒメハギ, ミゾソバ(10種)

黄系統: アメリカセンダングサ, カタバミ, カンサイタンポポ, コメツブウマゴヤシ, ニガナ, ブタナ, ミヤコグサ(7種)

白系統: アリアケスミレ, オオニシキソウ, シロツメクサ, ヒメジョオン, ヨメナ(5種)

青系統: オオイヌノフグリ, ツリガネニンジン, ヒナギキョウ(3種)

この中で, ヒメジョオンとヨメナは花芯が黄色であり, 黄系統の花での吸蜜と考えるのが正しいかもしれない

い. モンシロチョウの色覚に関する研究では紫>黄>青>赤の順に反応が見られ, 赤色にはほとんど反応がなく, 赤い花にくる場合も花の芯部分が黄色であるため, 赤い色に惹かれての結果ではないと説明されている(福田他, 1982). シルビアシジミに関しては色覚に関する研究例はないと思われ, 興味ある課題だと考えている.

なお, 高砂市の生息地は長年の定期的な除草以外に草原に大きな変化はない状況で推移してきているが, 今年は真夏の猛暑と1か月以上も雨が降らない異常気象が続いたせいも, 主要生息地であった草地がシルビアシジミの主な食草とはなりえないと思えるウマゴヤシやイネ科植物が繁茂する状況へと様変わりをしており, ミヤコグサは数えることができる程度の株数にまで激減している. それでも2020年10月1-2日の観察では♂♀ともに3頭ほどが確認でき, ミヤコグサは定期的な除草が行われる道路沿いの斜面にもいくらか残っていることから, 誰も気づかないまま長年代をつないできている実態が, 今後とも継続されることを願って観察を続けたい.

本稿の準備中に, これまでに記録のなかった3種の吸蜜例に関する情報と画像ファイルを提供して下さった宮下耕一氏に, 深く感謝いたします.

参考文献

- 広畑政巳, 近藤伸一, 2007. 兵庫県の蝶. 330pp, p.171, 岩峯社, 東京
- 福田晴夫他著, 1982. 原色日本蝶類生態図鑑(I)保育社, p.185
- 島崎正美, 2015, 兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物. きべりはむし, 38(1): 4-5
- 島崎正美, 2016, 兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物—続報—. きべりはむし, 39(1): 17-18